way　　くぼかわひより

犯人１
犯人２
小説家
女子高生
占い師
アナウンス（声だけ）

バスの中。女子高生、小説家、占い師が座っている。犯人１、犯人２が乗ってくる。ドアが閉まる、発車。

アナウンス　次は、終点、終点。

しばらくして犯人１、２が目を合わせ、うなずく。

犯人１　　手を上げろ！このバスは我々がジャックした。殺されたくなければ、言う通りにしろ！

犯人１、２が銃を向ける。３人、全く気づかない。

犯人１　　もう一度言う。手を上げろ！このバスは我々がジャックした。

３人、反応なし。

犯人１　　手！を！あ！げ！て！よ！

３人、反応なし。

犯人２　　・・・どうする？全然何の反応ももらえてないけど
犯人１　　もしもーし、聞いてますかー

犯人１、女子高生の肩をたたく。

女子高生　あ？何です・・・き、きゃあああああああ！！！
犯人１　　大人しくしろ！

女子高生　え、あ、あのわたし、何も悪いことしてません！品行方正成績優秀、真面目に生きてる女子高生ですお巡りさん捕まえないで！

犯人２　警察じゃないよ！どう見ても違うでしょ！

女子高生　え？・・・なんだ、紛らわしいなあ・・・じゃ、いいや

犯人１　なんでだよ！銃向けられてんだよ！？

女子高生　うーん、別に、怖くないかな

犯人２　いや絶対怖いでしょ！命が危険にさらされてるんだよ！？

女子高生　あーはいはい怖い怖―い、これでいいでしょ

犯人１　いいわけないでしょ！？

女子高生　うるっさいなあ、今ＹｏｕＴｕｂｅみてるから後にしてっっ！

女子高生、イヤホンを再びして前を向く。

犯人１　えー・・・

小説家、起きる。のびをする。

小説家　・・・う、あれ・・・やば！！乗り過ごした！！

犯人２　うるさい！大人しく座ってろ！

小説家　へ？え、も、もしかしてこのバス・・・

犯人１　そうだ。このバスは我々がジャックした。いいか、殺されたくなかったら・・・

小説家　まじすか！！？？ラッキー、今日の私超ついてる！！！

犯人１　何でそうなる！？

小説家　これはいいネタになるぞ・・・最近マンネリ化してきてるって言われちゃったしなあ・・・よし、これはチャンスだぞ！あ、すいません、ちょっとお話聞いてもいいですか？

犯人１　静かにしろっていってんでしょ

小説家　あ、私、サカキサトコって名前で小説書いてるんですけど

犯人２　え、サカキサトコって、もしかして『海の上の御徒町～山菜のピクルスを添えて～』の作者の・・・！？

犯人１　どんなタイトルだ

小説家　あ、そうです

犯人２　す、すごい・・・あ、あの、ファンです！！先生の本、全部持ってます！！『ジャパニーズ・オブ・ジェネリック』とか、『鯉のぼりの滝修行ｗｉｔｈ紅鮭』とか、サイッコーでした！

小説家　ありがとうございます

犯人２　えーと、あ、ここにサインください！

犯人１　え、銃に？

小説家　もちろんです

犯人１　いいんだ
小説家　あ、サインする代わりに、お話聞かせてもらってもいいですか？
犯人２　先生のお役にたてるなら！
小説家　ありがとうございます。じゃあ、まずは・・・

小説家、犯人２話し込む。

犯人１　・・・えー、なにこれ、えー・・・
占い師　ハッ！

占い師、突然立ち上がる。犯人１を見る。

占い師　見えました。あなた、とんでもないことを、しましたね？
犯人１　何この人怖い
占い師　あなたは、大きな罪を、犯している。お心当たりは、ございませんか？
犯人１　いや完全に今だよね、バスジャックしてるし
占い師　あなた、前世からの因縁に縛られています。なんと・・・これは、とても大きな大蛇の念が取り憑いています・・・取り払わなくてはなりません。
犯人１　はい？
占い師　そう、大蛇。大きな蛇と書いて、大蛇。ビッグ・スネークと書いて、大蛇。
犯人１　蛇が大きいから、大蛇。
占い師　全部同じこと言ってるけど
心配ありません。ここであったが百年目。私が、あなたの大蛇を、取り払って差し上げましょう
犯人１　うん、ここであったも何かの縁って言いたかったのかな
占い師　それでは、行きます。

占い師、なにやら呪文を唱えはじめる。いつの間にか女子高生が小説家と犯人２の話に混ざっている。

女子高生　え、まじ？犯人さんって彼氏いないの！？
犯人２　うん、今まで出会いとかもあんまりなかったし、ピンとくる人もいなくってもったいないですよ、命短し恋せよ乙女、ですよ
小説家　そうだよそうだよ、めちゃ真面目だしいい人だし、すぐいい人見つかるって！
女子高生　あ、なんなら紹介しよっか？
犯人２　気持ちはありがたいけど、さすがに、ねえ・・・
犯人１　あーーーーーもう！！

全員びっくりして犯人１を見る。

犯人１　なにこれ！！全然バスジャックじゃないじゃん！なにゆったり話してんのさ！？
犯人２　あ、そうでしたそうでした
犯人１　だいたいあんたたちもなんなんだよ！全然怖がってくれないし！普通銃向けられたら怖がるでしょ！
女子高生　うーん、そうでもない
犯人１　そうでもあるの！
占い師　急に叫びだしたのも、大蛇のせいですね。さらにお祓いを・・・
犯人１　もういいから！！もう、全員静かに座ってろ！！

女子高生、小説家、占い師座る。犯人２、しぶしぶ３人に銃を向ける。

犯人１　・・・はあ、なんか訳わかんないバス、ジャックしちゃったなあ・・・

沈黙。

占い師　暇ですね
女子高生　だね
小説家　ですね
犯人１　いっとくけど、助けなんて呼んだら、頭ぶち抜きますからね
犯人２　え、怖っ
犯人１　お前が怖がってどうする
犯人２　だって頭ぶち抜いたら死んじゃうよ！？せめてデコピンにしとこうよ！
犯人１　それじゃ脅しにならないだろ！
女子高生　てかさー、なんで、バスジャックなんてしてるの？
犯人１　・・・
小説家　そうですよ、なんで、こんなことしてるんですか
犯人１　・・・関係ないでしょ、ほっといて
占い師　ていうか、バスジャックするなら、なにかしら要求があるんじゃなくて？
犯人１　うるさい、撃つぞ
女子高生　それそれ。お金が欲しいーとか、仲間を解放しろーとか、ないの？
犯人１　・・・それは・・・
女子高生　え、まさかノープラン？理由なし？
犯人１　・・・
犯人２　違うんです！私が、誘ったんです
犯人１　ちょっと
占い師　バスジャックに？何のためによ
犯人２　・・・彼女を、救うため、です

女子高生　どういうこと？

犯人２　・・・彼女が傷つくのを、もう、見ていられなかったんです

小説家　何が、あったんですか？

犯人２　・・・ねえ、もう、隠さなくっても、いいんだよ

犯人１　・・・

犯人１、銃を下ろして中央に立つ。喋りはじめる。

犯人１　・・・昔、私には、とてもとても、大切な人が、いました。誰よりも強くて、誰よりも優しくて、誰よりも素敵な人でした。彼と初めて会ったのは、私が１６歳の、時でした。

犯人１、スポット。その後ろに女子高生。

女子高生　は、初めまして、よろしくお願いします。

犯人１　あの頃の私は、人見知りが激しくて、あんまり話すのも上手じゃなくて。でも、たまたま隣になっただけなのに、彼はこんな私にとても優しくしてくれました。

女子高生　え、これ、ずっと探してた本・・・私のために？あ、ありがとう。・・・君って、優しいんだね

犯人１　優しい彼に、私はだんだんと惹かれていきました。偶然にも、彼とは３年間同じクラスでした。彼は人気者だったけれど、地味な私ともずっと仲良くしてくれました。しかし、高校３年の頃、彼が遠くの大学を受験して、離ればなれになってしまうことを知りました。

女子高生　・・・私、決めた。君と同じ大学を、受ける。絶対に、合格してみせる。

女子高生と小説家、位置入れ替わる。

犯人１　でも、彼には同じ大学を受けることは告げませんでした。必死に勉強して、私は彼と同じ大学に入ることが出来ました。

小説家　おはよう！びっくりした？実は私も、ここに通うことになったんだ！

犯人１　彼は驚きながらも、喜んでくれました。そして彼が、文芸サークルに入ることを知りました。

小説家　え、文芸サークル入るの？実は、私もなんだ！もう届けも書いちゃった

犯人１　もちろん大学時代も、彼は変わらず私に優しかった。私も、どんどん彼のことを好きになりました。いままでとは比べものにならないくらい。入学祝いに買ってもらった携帯で、だめと分かっていながらもこっそり彼を隠し撮り。彼宛の、慣れないラインの回数も増えました。

小説家　おはよ！え、内定決まったの？おめでとう！・・・もう、就職かあ・・・実

感ないなあ

小説家と占い師、位置入れ替わる。

犯人１　就職してから、彼に会う回数は減ってしまいました。あまり、彼からの返信も返ってこなくなりました。彼の家に行っても、留守ばかり。仕方が無いので、彼のポストに１日１通手紙を入れることにしました。

占い師　仕事は大変だけれど、とってもやりがいのあるものなの。まだまだ見習いではあるけれど、頑張らなきゃね。君は今、やっぱり忙しいからあまり会えないんだよね？

犯人１　相変わらず返事はなかったけど、辛かったことも、楽しかったことも、私のこと全部全部、彼に知ってほしかった。

占い師　今日ね、帰りの電車で君を見かけたんだ。声をかけようと思ったら、隣に女の人がいたの。ねえ、知ってるよ。あの人、同じ課の隣のデスクの人だよね？どうして同じ駅で降りたの？私にもあんな笑顔、見せたことないよね？

犯人１　彼は、私に隠れて浮気をしていたのです。その次の週の日曜日、彼から呼び出されました。久々に会えることが、とっても嬉しかった。なのに。

占い師　・・・え？結婚する・・・？どういうこと・・・？もう、二度と関わらないでほしい・・・？ちょっと、ちょっと待ってよ・・・！！

犯人１　彼は、私ではない、浮気相手の女と結婚すると言い出しました。しかも、私には二度と関わらないでほしい、とまで。私には、なぜ彼が私を選ばないのか、分かりませんでした。朝から夜までずっと、毎日彼のことだけを考えていたのに。彼の声だって、毎日毎日聞いていたのに。彼の写真だって、もう私の部屋を埋め尽くすほどたくさんあるのに。あんな女なんかよりも私の方が彼のこと、たくさんたくさん知ってるのに。

女子高生　こんなにずっとずっと、一緒にいたのに。

小説家　こんなにずっとずっと、大事にしていたのに。

占い師　こんなにずっとずっと、愛していたのに。

犯人１　私は、私は、私は

犯人１、泣き崩れる

犯人２　・・・ねえ、辛かったよね

犯人１　・・・え？

犯人２　・・・わかるよ、その気持ち。

犯人１　・・・あなたは、誰？

犯人２　・・・私は、私。そして、あなたは、あなた。それ以上でも、それ以下でもないの

犯人１　どういうこと・・・？難しくて、よくわかんないよ

犯人２　だいじょうぶ。もう、なにも考えなくって、いいんだよ

女子高生　そう、なにも

小説家　なにも

占い師　なにも

３人　なにも

犯人１　・・・え？

犯人２　だって、ここが、終点だから。

暗転。急ブレーキの音。衝突音。

アナウンス　終点、終点です。ご乗車、ありがとうございました

～ｅｎｄ～